

モンゴル国立医科大学-徳島大学 交流10周年記念会の大成功を祝して

医学部長補佐(渉外(国際)関係担当) 島田 光生

この度、8月1日にモンゴル国立医科大学-徳島大学 交流10周年記念会が大々的に執り行われ、成功裏に終了しました。モンゴル国立医科大学 (Mongolian National University of Medical Sciences: MNUMS) からは、Batbaatar Gunchin 学長、Sumberzul Nyamjav 副学長、Amarsaikhan Bazar 副学長をはじめ8人の役員その他、3人の Faculty member そして、6人の学生や学長のお嬢さんが参加されました。今回のように多くの方がモンゴルから来られるのは初めてのことだそうです。

徳島大学からは香川学長、荻原医学部長をはじめ、細井副学長(国際センター長)、青野前学長など多くの方が参加されました。荻原医学部長の開会の言葉に始まり、香川学長からは2005年に医学部間の学術交流が始まり2007年に現在の大学間交流に発展し2012年には徳島大学卒業留学生同窓会 (Mongolia Association of the University of Tokushima Alumni: MAUTA) が設立されてきた経緯と今後更なる交流の深化が期待されるとのご挨拶、細井副学長からはこれまでに総勢28人が博士課程を修了し、18人は現在在学中でありこれは徳島大学の中で中国とマレーシアに次ぐ大きな勢力で今後益々その絆が強くなることを祈念しますとのご挨拶、MNUMS 学長と副学長からのお礼を込めたご挨拶の後、これまでの「交流を振り返って」、青野前学長、曾根元医学部長(スライド出演)や谷特任教授(スライド出演)により、交流の馴れ初めから、大学間協定の調印の頃の話、玉置前医学部長や Bayanmunkh

Battulga MNUMS 徳島大学卒業留学生同窓会会長からの交流の裏話や、楽しい思い出が話され、村澤国際コーディネータから経時(年)的な交流の記録が詳細に報告されました。中でも、西野徳島大学/MNUMS 名誉教授が、モンゴルでの歯科診療支援を通じた交流が大きく日本/モンゴルで取り上げられていること、小児歯科の教科書をモンゴル語で訳し出版されたこと(モンゴル人のモンゴル人による、モンゴル人のためのモンゴル語による初めての教科書)が賞讃され、西野先生が壇上に上がって交流について話された時には、この日の一番の拍手が湧き起こりました。その後記念品の交換が行われ(写真1)、記念会は極めて友好的で楽しい雰囲気の中で終了しました。(写真2)



▲写真1
交流10周年記念会記念品交換
香川学長、Batbaatar学長、
荻原医学部長、
Munkhbayarlakh医学部長
(左から)

▲写真2
交流10周年記念会集合写真
西野名誉教授、荻原医学部長、
青野前学長、香川学長、
Batbaatar学長、Amarsaikhan副学長、
Sumberzul副学長、
Munkhbayarlakh医学部長、
Tuvshinjargal薬学部長
(前列左から)



10周年記念会に先立ち、モンゴルからのお客様は前日の7月31日(金)に徳島にられました。Batbaatar 学長と Amarsaikhan 副学長は東京経由でお昼頃に着かれ、他の方々は関西国際空港経由で夜遅くの到着となりました。学長は現在 JICA の資金で、MNUMS 附属病院を建設する最終段階(設計/建築業者の入札)にあるため、午後、病院情報センターで情報システムの説明に興味深くまた熱心に受けていました。夜は医学部長主催の夕食会が開かれ、和やかな雰囲気の中で歓談、食事を楽しまれておられました。(写真3)



▲写真3 医学部長主催夕食会
Amarsaikhan副学長、
Batbaatar学長、香川学長、
西野名誉教授(前列左から)

翌日の記念会の後は、病院見学ツアーが催され、

出来たてほやほやの新外来棟(院長室や安野光雄氏の絵画がある管理棟)(写真4)、検査部、放射線部などを熱心に視察されていました。



▲写真4 徳島大学病院新外来棟見学

その後、ホテルクレメントに場所を移し、学長主催のレセプションが行われました。両大学からの挨拶の後で、記念品の交換が行われました。また徳島大学からの参加者全員にも記念品を頂きました。モンゴル学生が伝統衣装を身にまとってのフルート演奏や、日本の歌の披露がありました。特にホーム



▲写真5 モンゴルの伝統舞踊

ミーといわれるモンゴル伝統の喉を使った発声による歌は初めて見た日本の先生方も多く大変興味深く鑑賞しました。また

女子学生によるモンゴルの伝統舞踊(写真5)も行われました。その後は徳島大学栄養学連による阿波踊り(写真6)が行われ、最後はモンゴル学長先生を含めて、会場の先生方全員が阿波踊りに参加し大変盛り上がりしました。各テーブルではモンゴルのウォッカを飲みながら、楽しい雰囲気の中時間が経つのも忘れて交流に花が咲いていました。

これまでMNUMSと徳島大学の交流は極めて順風満帆にきていますし、またこれから次の10年も、今まで以上に両大学の絆がより強固になり、日本のでっぺんの素晴らしい国際交流に発展することを確信いたしました。



写真6 ▶
徳島大学栄養学連による阿波踊り

寄附講座「地域医療人材育成分野」紹介

地域医療人材育成分野 特任教授 川 人 伸 次
地域医療人材育成分野 特任教授 谷 洋 江

地域医療人材育成分野は、愛媛県公立学校共済組合四国中央病院の診療支援を中心に地域医療に貢献し、更に臨床に還元できる研究と医学生・看護学生・若手医師・看護師等の教育を行い、優秀な人材育成に寄与することを目標とし、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(現:医歯薬学研究部)内に平成27年2月1日付けで開設されました。医学領域から3名(麻酔科医2名、眼科医1名)、保健学領域から1名の教員が所属し、計4名で活動を開始しました。そして、平成27年4月1日より看護職1名の教員が増員されました。

医学領域では四国中央病院内に徳島大学病院サテライトセンターを設置し、地域中核病院として医療の質の向上を目指して活動を開始しました。麻酔科と眼科で診療支援を行っています。手術症例数(特に眼科手術)は著明に増加しています。更に、効率的な手術室運営と術前・術後も含む周術期の一貫した患者支援を目的として、周術期管理センターを開設します。集中治療・ペインクリニック・緩和医療への臨床支援も計画しています。

保健学領域では、看護職の資質向上のための教育や学生実習指導等の充実を目指して医療人材を一体的に養成するためのプログラム研究等を行っています。また、これまで行ってきた徳島県内での子どもの虐待予防活動に関する研究を活かして、四国中央病院に子どもの虐待・DV対策委員会を設置し、ハイリスク家族のスクリーニングおよび院内支援・地域との連携支援を開始しました。4月からは更に助産師としての活動も加わり、より充実した支援内容となりました。

研究も私たちの重要な使命であり、基礎・臨床研究を積極的に行っています。現在進行中の主な研究プロジェクトは、1)カリウムチャンネルに関連した麻酔薬による血管機能保護効果の研究、2)経食道心エコー法を用いた先天性心疾患患者の術中心機能解析、3)人工臓臓を用いた術中強化インスリン療法の確立、4)低温反応性アルブミン除去アフエレーシス療法の開発、5)I型糖尿病患者と家族への看護援助、6)子

どもの虐待予防のための育児期の家族の支援、等です。

地域啓蒙活動に関しては、各種シミュレーション機器を導入し、四国中央病院内にスキルラボが整いました。今後、院内・院外問わず、救命救急・蘇生法の講習会等に広く役立つと考えています。

地域医療人材育成分野は、1つの分野に複数の職種・領域が含まれる新しい形の分野です。医学科・医科栄養学科・保健学科の3学科を有する徳島大学医学部の特色を生かした取り組みで、全国的にもあまり例がありません。一般的に「地域医療」というと、プライマリ・ケア、家庭医療学、総合診療医学を中心に内科・外科といったメジャー科が中心とされていますが、地域中核病院ではマイナー科医師・看護職の人材不足も深刻で、診療に支障をきたしています。私たちはそれぞれの専門性を生かして、各専門領域に特化した地域医療貢献を目指しています。



公立学校共済組合四国中央病院